

# 関係団体からの意見及び府の考え

カテゴリー (府の考え)	団体の意見	意見を踏まえた方向性(府の考え)
<p>規定上2.0mの歩道でも、電柱や安全柵により、幅員がフルに歩行空間として利用できないケースがある。幅員2.0m以上の実質的な歩行空間を確保するなど、誰もが安心して歩ける歩道としたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○歩道の基準（幅）はどうか。</li> <li>○雨の日に歩道の水溜りがある場合、勾配がきつところでは、車イスはスリップ° することがあるので、排水についても配慮してもらいたい。</li> <li>○事故防止およびバリアフリーの対策として、歩道の形式はマウンドアップ（波打ち歩道）ではなく、歩道への逸脱のためにもセミフラットで歩車道境界の高さを確保してほしい。</li> <li>○歩道の車両乗入れ口の高さ5cmについて、どうしていくのか。</li> <li>○歩道の切り下げについて、車イス利用者からみれば、段差をなくしてもらいたい。2cmでも、手押しの車イスでは上がれないところがある。</li> <li>○縁石について、交差点部において兵庫や国道25号で最近使用されている、通行部分（横断歩道）の段差の無いタイプを使用してほしい。</li> <li>○特定経路にないバス停留所でもバリアフリー化を進めてもらいたい。協会としてはノステップ° バスの導入を進めているが、道路が対応していないと効果が無い。</li> <li>○車イスでは、点字ブロックを踏んだときの凹凸による振動が体への負担になるので、視覚障がい者の方に配慮しながら、車イスでの通行も考慮してもらいたい。</li> <li>○点字ブロック上に物を置いたりされることがあるので、その大切さを認識してもらうことが重要。</li> <li>○点字ブロックは凹凸だけではなく、色が黄色ということが、弱視の方にとっては重要なので、安易に色目を変えずに、維持管理もしっかりしてもらいたい。</li> </ul>	<p>歩道の有効幅員、透水性舗装、横断勾配の緩和などのバリアフリー規定を、特定道路だけでなく府が管理する全ての道路に適用していく。（道路構造条例にも位置づけ）</p> <p>また、有識者や関係団体とともに定められた移動等円滑化基準に基づき、バリアフリー化を着実に整備改善を図っていく。（移動等円滑化条例にも位置づけ）</p>

# 関係団体からの意見及び府の考え

カテゴリー (府の考え)	関係団体の意見	意見を踏まえた方向性(府の考え)
<p>自転車ネットワーク上必要な箇所(幹線道路)で、車道における自転車通行空間を明確化したい。</p>	<p>○自転車で夜間、無灯火で走行している人を見かける。車を運転する立場からでも、歩道を利用している立場からでも非常に危険を感じる。</p> <p>○歩道での自転車と車いすとの接触は、車いすが転倒することがあるので、自転車を物理的に分けてもらいたい。万が一のとき、車いすは歩行者に比べ、咄嗟に避けることができない。</p> <p>○視覚障がい者と自転車利用者とのトラブルが多い。</p> <p>○切り下げが多く自転車が走りにくいことから、自転車が車道に飛び出すようなことがある。どうにか切り下げを少なくするか、自転車のスペースをとるべき。</p> <p>○自転車の通行位置は、自転車道が一番良い。自転車道が無い場合でも、車道ではなく歩道で、歩行者と分離して走行させるべき。自転車も進行方向が定められているが、意識が低く逆行しているケースもある。</p> <p>○バス停に停車しようとするバスと路肩走行中の自転車との接触について、バス運転者がヒヤリとすることも多いと聞いている。また、自転車との接触事故等が発生した場合は、バス側に責任の度合いが大きいように判断されがちである。以上のことより、バス停留所付近での自転車通行についての何らかの措置をお願いしたい。</p> <p>○自転車は歩道を通すなど、完全に分離してもらいたい。</p> <p>○軽度の知的障害の方は、自転車が主要な移動手段となっており、かなり遠方まで自転車を利用して移動を行っている。安全に移動できるよう、自転車道の整備を進めてもらいたい。また、照明灯があると夜でもより安全と思う。</p> <p>○歩道の自転車走行について、歩道を歩いている時に、後方から来る自転車のベルが聞こえず、危ない思いをする時がある。府内の道路に自転車レーン(青レーン)を早急に整備してもらいたい。</p>	<p>自転車の安全利用のため、</p> <p>①指導取締り ②ルール・安全教育 ③通行空間整備</p> <p>などの取り組みにより、すべての道路利用者が道路を安全に通行できる環境づくりを進める。</p> <p>なお、③の一環として必要に応じ、車道においても自転車通行空間を確保することができる規定を道路構造条例に盛り込み。</p> <p>また、自転車関連事故の多くは、比較的道幅の狭い道路で発生していることから、細街路も対象にした、自動車への注意喚起や自転車の通行位置・進行方法等を示す法定外表示の府内統一仕様を作成する。</p>
<p>歩行空間等を確保しつつも、府民が実感できる「みどり」を確保したい。</p>	<p>○緑化については、安全と環境についてどう考えるか。まちの彩りも大切。</p>	<p>植樹帯に限定せず植樹柵で代替できる規定を道路構造条例に盛り込み、府民が実感できる「みどり」(緑視率)を確保していく。</p> <p>また、路線・地域の特性を考慮し「活力・成長」「安心・安全」「都市魅力」の観点からの課題や府民ニーズなどを踏まえ、道路空間再配分の優先性を総合的に判断する。</p>

# 関係団体からの意見及び府の考え

カテゴリー (府の考え)	関係団体の意見	意見を踏まえた方向性(府の考え)
	<p>○停車帯や路肩等が広い道路で、トラックが路肩に駐車しているところがある。危険や渋滞の原因でもあるが、止めやすい路肩なので、つい停めてしまっているかもしれない現状かと思う。そのため、あえて駐車できないように路肩幅員を縮小するなどの考えがあってもよいかと思う。</p> <p>○観光客は大型バスでの移動が主であるので、観光地付近では、客の乗降のための停車帯の設置など配慮してもらえれば観光しやすくなってよい。</p> <p>○タクシー客の乗降時に自転車やバイクが、扉や客と接触することがあるので、停車帯でも歩道や植樹帯を切り込んで、車両が少しでも入り込むような空間があった方がよい。(特に、観光地、ビジネス街、ショッピング街等)</p> <p>○バスが右折待ちをしていると、幅員が狭く直進できないようなところがある。歩道がかなり広いので、当初から、そういうことも考えて道路を造るべき。</p> <p>○観光地付近では、大型バスによる渋滞も起こりやすい。特に交差点では、バスの右折待ちで直進できない状態となり渋滞する場合もある。交差点での右折レーンの設置に配慮してもらいたい。</p>	<p>路線・地域の特性を考慮し、「活力・成長」「安心・安全」「都市魅力」の観点からの課題や府民ニーズなどを踏まえ、道路空間再配分の優先性を総合的に判断する。</p>
<p>「活力・成長」「安心・安全」「都市魅力」につながる道路づくりを進めたい。</p>	<p>○標識について、知的障害のある方でも分かりやすいサインなどにしてもらいたい。</p> <p>○標識について、一般的に漢字、ローマ字表記しか無いのでひらがなや分かり易い絵文字(JIS規格:ピコ外サイン)等も考慮してほしい。</p> <p>○道路標識(行き先案内)に絵文字(JIS規格:ピコ外サイン)があると、字が読めない人や外国人でもわかりやすい。</p>	<p>地域の実情に応じた運用ができるよう、具体的事例を基に検討していく。</p>
<p>「活力・成長」「安心・安全」「都市魅力」につながる道路づくりを進めたい。</p>	<p>○車いす利用者にとっては、道路空間は、まず、平面で移動できるよう考えてもらいたい。大きな道路で歩道橋はあるが、大回りしないと横断歩道が無い場合がある。</p> <p>○交差点に自転車横断帯のみ設置している場合があるが、自転車だけでなく、車いす利用者が安心して横断できるような工夫もお願いしたい。</p> <p>○車いす利用の方々の外出を促進するうえで、移動手段として欠かせないのが鉄道。複数で移動する場合があるが、エレベータに1台だけしか乗れない場合では非常に時間がかかる。また、エレベータが設置されていても鉄道会社によって、スライダの大きさの規格が違っていたり、設置場所が分からなかったりと不便が多い。出来れば大きい規格での統一を図ってほしい。また、エレベータの設置場所について付近での標識等による誘導がほしい。</p>	<p>有識者や関係団体とともに定められた移動等円滑化基準に基づきバリアフリー化を着実に整備改善を図っていく。(移動等円滑化条例にも位置づけ)</p>
<p>「活力・成長」「安心・安全」「都市魅力」につながる道路づくりを進めたい。</p>	<p>○大阪にも観光の主演となるような道路があればよい。イチョウ並木はあるが、例えば、四季が分かる花が何れも続く道路や鳥取県にあるゲゲゲの鬼太郎の音楽が流れる道路やキャラクターが設置してあるものなど、芸術的な要素も取り入れていくことも考えてはどうか。その道路自体が観光の対象になるようなものができればよいかと思う。</p> <p>○観光地を案内する標識については、四角ではなく、例えば、大阪城付近ではお城の形をした標識板や、絵を取り入れたりできれば、わかりやすいかと思う。</p>	<p>地域の実情に応じた運用ができるよう、具体的事例を基に検討していく。</p>